

市長2期目へ立候補する決意を表明!

古賀市長
田辺かずき
市政報告

オール古賀を実践!
まちづくり推進中!

1期目公約、多くを達成・着手 自治体経営の継続が責務と判断

11月20日告示の古賀市長選挙に2期目をめざして立候補する決意を表明しました。9月8日の市議会本会議で、1期目4年間のまちづくりの総括と今後の展望を問われ、答弁したものです。4年前の選挙で市民の皆さんにお示しした公約の多くは達成ないし着手し、私の自治体経営の理念を盛り込んだまちづくりの長期指針である第5次総合計画も今年度から始動しており、市長として継続してその任に当たるべきと判断しました。



市議会本会議で2期目をめざす決意を表明=9月8日

2018年12月に市長に就任し、「産業力の強化」「チルドレン・ファースト」「誰もが健康で安心して暮らせる地域社会」を大きな柱として様々な生活課題、地域課題の解決に取り組んできました。新型コロナウイルス感染拡大という予期せぬ事態にも直面しましたが、全庁的な危機管理体制を構築し、「事業者」「子ども子育て」「経済的困窮」への支援を軸として、ワクチン接種も含めて迅速に対策を講じてきています。

この4年間のまちづくりで特に大きな前進は、中心市街地である古賀駅東口の開発と西口の本質的な再生に着手できたことです。産業力の強化を図るため、古賀グリーンパーク直近へのピエトロさまの新工場建設で合意。今在家地区での工業団地の約20年ぶりの拡張、大内田地区における物流機

能の拡大、新原高木地区の開発に向けた調整、藤野清滝地区の農業基盤整備事業などを進めることができました。西鉄宮地岳線跡地は中川区と花見南区で道路や歩道などの整備に向けた詳細設計に入っており、まずは中川区で工事が始まります。千鳥駅東口のロータリー整備は今年度設計を進め、来年度にも着工の予定です。ししぶ駅の近く、国道3号と国道495号を高架橋で結ぶ浜大塚線を完成させることができました。

能の拡大、新原高木地区の開発に向けた調整、藤野清滝地区の農業基盤整備事業などを進めることができました。

西鉄宮地岳線跡地は中川区と花見南区で道路や歩道などの整備に向けた詳細設計に入っており、まずは中川区で工事が始まります。千鳥駅東口のロータリー整備は今年度設計を進め、来年度にも着工の予定です。ししぶ駅の近く、国道3号と国道495号を高架橋で結ぶ浜大塚線を完成させることができました。

技術革新など時代の変化を捉え、新たな価値を生み出すまちづくりも強く意識してきました。デジタル推進課を立ち上げ、市民サービス全般におけるデジタル導入の検討に着手するとともに、デジタル庁に職員を派遣しています。誰一人取り残さないため、スマホ教室も開催。テレワークの普及など働き方への意識の変わりに応じ、薬王寺温泉オアシス「快生館」にサテライトオフィスやコワーキング

県市通算第65号
(市政第11号)
2022年9月発行
<田辺かずき事務所>
・challenge@tanabe-kazuki.jp
・http://www.tanabe-kazuki.jp/
・https://ameblo.jp/tanabe-kazuki/
Facebook, Twitter, Instagramも

【裏面もあります!】
■新型コロナと危機管理
■公園に紙おむつ自販機

教育環境の整備、ヤングケアラー支援なども先行して取り組んでいます。超高齢社会に対応するため、地域包括支援センターを中学校区に1カ所ずつ設置して身近な相談にきめ細かく応じる体制を実現するとともに、複雑化・多様化する社会課題に対応するため「断らない相談窓口」を新設しました。オンラインも活用して地域における健康づくり・介護予防も推進しています。LGBTQなど性的マイノリティの皆さんの権利保障のためのパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度、在住外国人の皆さんとの共生社会づくりに先駆けて取り組んでいます。ゼロカーボンシティを宣言し、脱炭素社会をめざす決意も明らかにしました。

技術革新など時代の変化を捉え、新たな価値を生み出すまちづくりも強く意識してきました。デジタル推進課を立ち上げ、市民サービス全般におけるデジタル導入の検討に着手するとともに、デジタル庁に職員を派遣しています。誰一人取り残さないため、スマホ教室も開催。テレワークの普及など働き方への意識の変わりに応じ、薬王寺温泉オアシス「快生館」にサテライトオフィスやコワーキング

グスペースなどの環境を整備し、首都圏などからの企業誘致、移住定住の促進につなげていきます。これらの多くの取り組みを進めていくため、市民の皆さんとの「対話」と「交流」に加えて、政府・国会や福岡県・県議会、全国各地の首長の皆さんとの連携を強化し、ネットワークを拡大してきました。

1期目4年間の成果を2期目につなげ、持続可能なまちづくりを進めていくため、市民の皆さんの引き続きのご指導ご鞭撻、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

紙ベースの報告書ではまちづくりのすべてを伝えることはできません。私のFacebookやTwitter、Instagram、LINEといったSNS、ブログ、古賀市HPなどでは、連日、様々な市政の動きを発信していますので、これらをフォローし、チェックしていただくと幸いです。こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます。

こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます

危機管理としての新型コロナ対策 — 即応して、決断する

子どもも、困窮、事業者支援

公約の理念に基づくとマネジメント

新型コロナウイルス感染症との対峙は自治体経営を担う首長の力が問われました。特にウイルスが全く未知の状況でワクチンも存在していない発覚からの1年は、行政が不得手とする「前例に捉われない」判断の連続。市民生活の現場の状況が不確かな中でも起きているだろう課題を「想像」し、解決策を迅速に実行しなければならぬ。マネジメントの根底に置いたのは、公約で掲げたまちづくりの理念でした。あの時を振り返ります。

政府や県の意思決定を待たない——不安が広がり始めた2020年3月、住民生活の現場に最も近い首長として、独自に対策を講じていく覚悟を決めました。当時、国や県から具体的な支援策や交付金もありません。古賀市の対策の柱は3つ。子ども・子育て、経済的困窮、事業者を支援する。私の2018年11月の公約の理念は、チルドレン・ファースト、誰もが健康で安心して暮らせる社会、産業力の強化。これらがそのまま生きました。

誰もが生活の現場で何が起きているのか、つかみきれない。だから経験を踏まえ、「想像力」を働かせる。行政は政策立案の際、現場で起きている課題を明確にしますが、パンデミックは有事。「起きていてであること」「起きてくるであろうこと」に対応しなければ、リアルタイムに、真に困っている住民の皆さまを救えません。

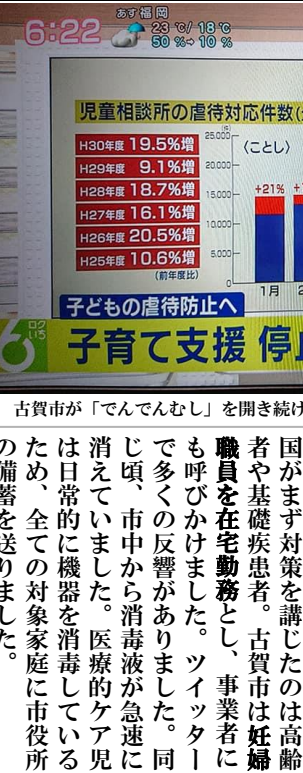
緊急事態宣言下、全国の自治体が公共施設を閉鎖する中、古賀市は乳幼児と保護者の居場所「でんでんむし」を開き続けました。子育て家庭が社会から隔絶すると、別のリスクが生じると考えました。数カ月後、児童虐待の潜在化を防ぐ取り組みとしてNHKが報道。今も「あの時、安心しました」と声をかけてもらえます。

妊婦の不安が高じていました。国がまず対策を講じたのは高齢者や基礎疾患患者。古賀市は妊婦職員を在宅勤務とし、事業者にも呼びかけました。ツイッターで多くの反響がありました。同じ頃、市中から消毒液が急速に消えていきました。医療的ケア児は日常的に機器を消毒しているため、全ての対象家庭に市役所の備蓄を送りました。

休校が続くかもしれません。コンを配備していません。全学年への即時調達には困難。最も守るべきは受験を控える中学3年生と判断し、夏までに全員に学習支援ソフト入りの端末を渡し、オンライン授業や家庭学習の環境を整えました。さらに、国に先行してひとり親家庭に5万円を給付し、休校中の弁当配食も実施しました。

ワクチン接種が始まっています。2021年2月、国の業事承認を受けたばかりの抗原検査キットの独自導入を決定。保育所・幼稚園や高齢者施設、障がい者施設などで確実な事業継続が必要と考えました。当時はPCR検査しか注目されていませんでしたが、現在の必要性が増しています。

こうして走っていると、オンライン講演の依頼が入るようになります。「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークさんや、有志の女性議員でつくるWOMAN SHIFTさんなどと交流でき、私自身の幅も広がりました。なお、古賀市は何度も補正予算を組みましたが、専決処分を行わず、毎月のように臨時会を招集しました。さらに、ホームページ、ブログ、フェイスブックやツイッター、インスタグラムといったSNSなどで私自身が連日発信。即時的な評価、事後の検証を可能とするためでした。付言すると、緊急とはいえ財政規模を意識してギリギリの対策を講じていました。その最後に国の交付金が創設され、結果としてほぼ全てカバーできました。



6:22 6月22日 23°C 13% 50% 10%

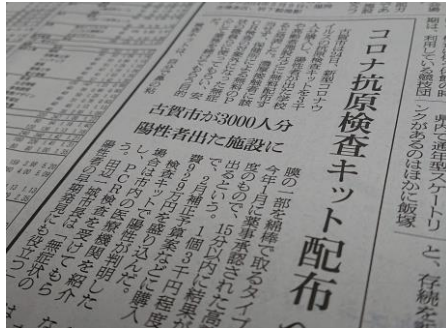
虐待 感染拡大が増加に影響が

子育て支援停止でストレス

子どもの虐待防止へ

子育て支援 停止させない取り組み

古賀市が「でんでんむし」を開き続けたことを報じるNHKニュース=2020年10月



抗原検査キットの導入を報じる朝日新聞 2021年2月25日付朝刊

ここでほとんども全ての取り組みを報告できませんが、首長の最も重要な務めである危機管理の抛り所が、公約の理念でした。この間、ご理解とご協力をいただいた市議会の皆さま、市職員の皆さま、そして何より市民の皆さまに心から感謝を申し上げます。

ベビー用紙おむつ 自販機を設置!

古賀グリーンパークと花鶴が浜公園に赤ちゃん用の「紙おむつ」と「おしりふき」を購入できる自動販売機を設置しました。



福岡県内の公園では初めて。子育て中の職員の発案がきっかけ。ショッピングモールなどでは設置が進んでおり、家族連れの利用が多い公園にもニーズがあると考え、ダイドードリンコさまにアプローチし、実現しました。

災害時の緊急対応 3社と協定締結!

災害時の電力供給で福岡トヨタ自動車さまと協定を締結しました。避難所などで給電可能な燃料電池自動車などを無償で借り受け、スマホやテレビによる情報収集、扇風機や暖房による寒暖の調整、障がいなどで使っている機器の使用などが可能になります。

さらに、避難所の物資確保のため、凍テックスさま、西福運送さまとも協定を締結しました。「除菌・消臭剤 スーパー凍水」の優先供給による感染対策などの現場の衛生管理、災害時に確実に救援物資を避難所に届けられるよう拠点から避難所への配送や拠点運営などにご協力いただけます。心から感謝を申し上げます。

田辺一城 (たなべ・かずき)

1980(昭和55)年5月16日生まれ/暁の星幼稚園、花鶴小学校、古賀中学校、福岡高校、慶應義塾大学法学部法律学科卒/2003年、毎日新聞に入社し、福井支局、大阪本社社会部/2011年から福岡県議会議員を2期務め、2018年12月に古賀市長に就任/妻と高校1年の長男、小学6年の長女/好きな音楽家はサザンオールスターズと椎名林檎、作家は夏目漱石と平野啓一郎、漫画家は手塚治虫